

秋分を過ぎました。前半期のしめくくり。皆さんも年度後期に向けて成長の力を十分蓄えて、開花させていって下さい。2学期の心のほっとライン、少し多くてすみません。いじめや暴力の問題は行事など独自の活動の中で生じがら。このことを、一層深く一緒に考えていけるメッセージとしてお伝えしたいです。

では、今回のテーマは…。



スクールカウンセラー来校日

祖母宅に遊びにあります

見て見ぬふり・関わらない…という罪

近年、様々な暴力の問題は、大きなニュースとなっている。その機会に、いろいろ深く考えている人も多いと思う。体罰もいじめも「暴力」の一つ。正当化できる理由など、何一つ存在しない。どんなわけであろうとも、「暴力」という手段を選んだら、それ自体が、大きな大きな罪なんだ。熱い思いもつらい思いも、暴力では、相手には伝わらない。愛のムチというのも、無知な人間の言い訳に過ぎないと思う。脳科学でも、暴力やハラスメント(いやがらせ)が、いかに人の心身を痛み傷つけていくか、ということが実証されている。直接的な身体的暴力はもちろんのこと、小さな言葉の暴力の積み重ねも、同じぐらい、あるいはもっと深く脳にダメージを与える可能性があるといわれている。

今、世間で問題視されているのは、さらにもう一歩、踏み込んだ問題。組織、あるいは周囲の人たちが、それを見て見ぬふりをしたり、気づけず修正を図れなかったという場合の「見て見ぬふり・関わらない」という罪、「暴力の罪を軽視してきた」という罪も、今、問われているんだね。

「関わらない」ということが、大きな罪だってことを、人は忘れてる。やっと虐待関連で「ネグレクト(育児放棄・関わりの放棄)」も暴力だということが、認知された。いじめ問題でも、「無視(シカト)」が一番つらかったと証言している人もいるぐらい。他人事にしてしまうことが日本書に珍ることもある。人は関わりの中で生きている。暴力は、関わりではなく一方的な力の支配。関わりというのは、相互交流、双方に向何度も何度も、やりとりを続けることをいう。もちろん、その中で傷つくこともある。でも、傷つきも含めて、互いに伝え合っていかないと、よりよい関係は作っていけない。最初から、関わりの上手な人はいない。大人になっても、決してみんなが上手になってるとは言えない。それぐらい難しいことだけど、関わり続ける努力なしには、関わり方は上手にならない。傷つきを恐れて「関わらない」としたら、それは、暴力にもつながる大きな罪だということを、忘れないで。

人として生きていく以上、相互に関わる努力をし、よりよい人間関係作りを学んでいこう。学校は、勉強だけでなくそういうことも学べる場。怖がらず、より多くの人と、関わり合う勇気を出そう。